

日本スタートアップ大賞 2023

審査委員会特別賞

 CureApp

株式会社CureApp



NIPPON
STARTUP
AWARD
2023



株式会社CureApp

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル4階



法人向けプログラム
「ascureモバイルヘルスプログラム」



デバイスによって
読み取れない場合があります。

<https://cureapp.co.jp>



最高経営責任者 (CEO) 兼 医師

佐竹 晃太

慶應義塾大学医学部卒、日本赤十字社医療センターなどで臨床業務に従事し、呼吸器内科医として多くの患者様の診療に携わる。2012年より海外の大学院に留学し、中国・米国においてグローバルな視点で医療や経営を捉える経験を積む。米国大学院では公衆衛生学を専攻する傍ら、医療インフォマティクスの研究に従事する。帰国後、2014年に株式会社CureAppを創業。現在も診療を継続し、医療現場に立つ。



医療機関向けプログラム「治療アプリ」

ソフトウェアで「治療」を再創造する

VISION

事業のビジョン

CureAppは、主に治療アプリというデジタル療法を用い医療格差、医療費増大といった本国の抱える医療を取り巻く社会課題を解決し「すべての人が安心していつでも良質な医療を享受できる社会の実現」を目指しています。

OVERVIEW

事業の概要

当社では現在ニコチン依存症、高血圧症、NASH(非アルコール性脂肪肝炎)、アルコール依存症、がん、慢性心不全、慢性腰痛症に対しての治療アプリの開発を進めています。既にニコチン依存症、高血圧症に関しての治療アプリは国内医療機関において医師による処方開始しています。国内において、治療アプリの薬事承認・保険適用を得て現状医師による処方開始しているものは弊社プロダクトのみです。

デジタル療法による治療アプリのアプローチは、医薬品・医療機器のような薬理的・外科的治療にとどまらず、患者の生活習慣からの意識・行動レベルの行動変容を促すことで、疾病の根本的改善にも資する可能性を持つという点において革新的といえます。

HISTORY

起業に至る 経緯・動機

創業者の佐竹晃太は医学部を卒業後に臨床医として勤務する中で、臨床現場の中だけでは解決することのできない、高騰する医療費や医療格差などの課題を感じるようになりました。その後、米国ジョンス・ホプキンス大学留学中に会った治療アプリの論文を機に、日本でも治療アプリという新しい治療法(デジタル療法)を創出することで本国の医療格差や医療費増大などの社会的な課題を解決できると信じ、帰国後すぐにCureAppを創業しました。

最初手がけた治療アプリの開発は、日本人最大の死亡要因である喫煙に対して、さらに自身が呼吸器内科専門医であることからニコチン依存症向けでした。

それまで医師のキャリアだけで進んできた中で、本格的なソフトウェア開発、資金調達、学会活動など、全く初めてのことばかりでした。当時日本にはまだ「治療アプリ」の概念は理解されず、多くの壁にぶつかりながらも「全ての人が安心していつでも良質な医療を享受できること」というインフラとしての医療体制を日本が維持継続できるよう、強い想いを持って治療アプリ開発事業を進めてきました。